事務事業マネージメントシートの見方①

事務事業マネージメントシートは、「計画」のページと「進行管理・評価・改善」のページで構成されています。

令和７年度　事務事業マネージメントシート（計画）

作成日：令和７年２月14日

事務事業名	「自分らしい学び」応援事業	種別	主
概要	・中間教室「ばれっと」の運営 ・不登校支援ボランティア等との連携及び関係者ネットワークの拡大 ・SEL（社会性と情動の学び）研修の実施 ・信州型フリースクールに通う家庭への利用料補助		
根拠法令等			
上位施策	記号と名称：A1「みんなキラキラ」子どもは町の主人公	目的：保育園児が屋外での遊びや運動を中心に様々な体験を深め、自然とふれあう中で、意欲、自立心、感性など根っこの力を育む	
		目的：小学生が「将来の夢を描く」ための基本的能力を獲得するとともに、主体性や問題解決力を身につけるようにする	
		目的：中学生が探究的な学びを通じ、自己課題を設定し、主体的に判断・解決する力を育み、「将来の夢」が描けるようにする	
担当課	教育委員会事務局	担当係	こども未来係

事務事業の名称や概要、上位施策などの基本情報です。

1. まちづくりプラン計画期間（令和11年度末）

1）事務事業目的

対象（誰、何が）		意図（どのようになる）
(1)	小中学生	自分らしく学び続ける居場所を探す
(2)	保護者	児童生徒の学びを支える
(3)	地域住民	地域全体で子どもたちの学びを支える

この事務事業の目的です。

2）令和11年度末目標（長期的な成果指標）

指標		現状と令和11年度末の値と設定根拠
A	長期欠席者数（年間30日以上）の減少	R11末：50人
B	長期欠席児童生徒が「ばれっと」を含めたフリースクールや多様な学びの場所に参加している児童生徒数	自分らしく学び続ける居場所の割合　60%

振興総合計画の最終年度（令和11年度）にこの事務事業が目指す目標（成果指標）です。

2. 単年度計画（令和７年度）

1）単年度目標（単年度の成果指標）

指標		現状と令和７年度末の値と設定根拠
a	長期欠席者数（年間30日以上）の減少	不登校・病気等　R6末63人 /R7末 60人
b	長期欠席児童生徒がパレットを含めたフリースクールや多様な学びの場所に参加している児童生徒数	自分らしく学び続ける居場所の割合 R6末47.6%　/R7末　50%
c		

この事務事業が単年度で目指す目標（成果指標）です。

2）取り組みと４半期ごと目指す状態

取り組み（具体的手段）	
①	教育支援センターばれっとを中心とした相談窓口の整備、受け入れ体制の充実
②	フリースクールなどの民間団体との連携による学習支援
③	ICT活用による教育機会の確保
④	保護者の個々の状況に応じた働きかけ

４半期ごと目指す状態（スケジュール）	
第1	保護者や地域住民に事業内容説明（パンフレット配布） 地域との連携による職場体験実施例）保育園
第2	第1四半期の活動の振り返り 夏休み期間中に特別な学びの機会の提供
第3	第2四半期の活動の振り返り
第4	第3四半期の活動の振り返り 次年度に向けた計画策定

目的や目標に近づくための具体的な取り組み（手段）と、スケジュールです。

事務事業マネージメントシートの見方②

令和７年度　事務事業マネージメントシート（進行管理・評価・改善）

最終更新日：令和８年６月５日

1. 令和７年度進行管理

４半期ごとの実績	
第1	・保護者や地域住民に事業内容の周知を行うとともに、調理実習や職場体験を実施した。 ・フリースクール利用家庭への補助を通じて、多様な学びの場の確保と支援を行った。
第2	・活動の振り返りや夏休みの学びの機会、教員向け研修のほか、子どもの自己選択を重視した活動を展開した。また「学校へ行きたくなる学級づくり」の事例共有や、SEL（社会性と情動の学び）研修を実施した。
第3	・第2四半期の活動を振り返るとともに、ICTを活用した学習支援により教育機会の確保を図った。
第4	・ばれっとの保護者会を開催し、こども家庭センターや指導主事、教育相談員等と1年間を振り返り、課題等を出し合い来年度以降の活動について共有した。 ・1年間、学校訪問を通じて小中学校との情報共有を行い、継続的な支援につなげた。

四半期ごとに進行管理を行っています。

2. 令和７年度評価

1）R7度の計画に掲げた取り組みの実績（実施の有無、回数、人数など　未実施も記載）

①	ばれっとに関するパンフレットを三校家庭数配布・支援指導主事職員を適切に配置した。また調理実習や保育園での職場体験等を行い、体制を充実させた。
②	フリースクール等に通う家庭への利用料補助を継続して実施し、経済的負担の軽減と多様な学びの場の確保を行った。
③	デジタル教材「すらら」を導入し、ICTを活用した学習支援により不登校児童生徒の教育機会の確保を図った。
④	活動の振り返りに基づき個々に働きかけた。小中学校への学校訪問で情報共有を密にし、継続支援につなげた。

当年度の計画に掲げた取り組みに対する実績です。

2）目標の達成度

指標		令和７年度末の状況 実績	達成度
a	長期欠席者数（年間30日以上）の減少　※病欠除く	R7年度51人/目標60人	100%
b	長期欠席児童生徒が「ばれっと」を含めたフリースクールや多様な学びの場所に参加している児童生徒数	長期欠席者の内、「ばれっと」利用24人、校内教育支援センター7人、フリースクール4人 合計35人/51人　実績68.6%/目標50%	100%
c			
a～c 平均			100%

指標		令和7年度末実績	令和11年度末実績・達成度
A	長期欠席者数（年間30日以上）の減少　※病欠除く	R7年度51人	目標50人
B	長期欠席児童生徒が「ばれっと」を含めたフリースクールや多様な学びの場所に参加している児童生徒数	R7年度68.6%	目標60%
AB 平均			

目標（成果指標）の達成度です。目標に対して実績はどの程度であったかを表しています。

3）取り組みの効果の確認

指標ａでは、県ウェルビーイング実践校事業と連携した初期対応・予防的アプローチにより、長期欠席者を目標（60人）を大幅に下回る51人（達成度100%）に減少できた。指標ｂでは、「ばれっと」の運営やフリースクール利用料補助の継続により、35人の居場所を確保し、参加率68.6%（達成度100%）を達成した。数値外でも「すらら」による学習機会確保や、学校訪問・保護者会、こども家庭センター等との密な情報共有が進み、家庭の安心感向上に繋がった。

目的に近づくことや目標達成に寄与したのかどうか、取り組みの効果を検証しています。

3. 計画・取り組みの検証

1）計画とそれに基づく行動は上位施策の目的に向上に有効であったか（有効でなかった場合はその理由も記載）

「自分らしい学びの実現」を目指し、「児童生徒の居場所確保」と「体験的・主体的・探究的な学習を中心とした県事業と連携した取り組み」は、上位施策の目的に有効に機能した。今後は長期欠席の多様化や低年齢化に対応するため、さらに「ばれっと」やこども家庭センター等との連携や園小中の接続をさらに深めていく。

計画と行動は、上位施策の目的向上に有効であったかどうか、取り組みの有効性を確認しています。

2）次年度の事務事業のあり方

■拡充　□維持　□縮小　□廃止　理由：長期欠席児童生徒の多様化や低年齢化に対応し、「ばれっと」を中心とした学校・こども家庭センター等、関係機関との連携・接続機能を強化して組織的な支援体制を拡充するため。

目的	変更の有無	□有　■無
	変更内容・理由	
目標	変更の有無	■有　□無
	変更内容・理由	指標Ａと指標ａを割合へ変更
取り組み	変更の有無	■有　□無
	変更内容・理由	学校と「ばれっと」が一体となり、切れ目のない支援体制をつくるため。 具体的には、学校の受入体制整備や支援会議等の実施に関する文言を追加するため。

事務事業のあり方や、改善点を記載しています。この評価に基づき、次年度の計画を改善（変更）しています。

事務事業マネージメントシートの見方③

令和８年度　事務事業マネージメントシート(計画)

作成日:令和８年６月５日

事務事業名	「自分らしい学び」応援事業		種別	主
概要	・令和5年度に開設した教育支援センター「ばれっと」の運営 ・不登校支援ボランティア等との連携及び関係者ネットワークの拡大 ・SEL(社会性と情動の学び)研修の実施(社会性や感情のコントロール、予防的指導の推進) ・信州型フリースクールに通う家庭への利用料補助による経済的負担軽減 ・商工会等を通じた、職業体験の機会			
根拠法令等	高森町教育支援センター設置要綱 高森町フリースクール利用料補助金交付要綱			
上位施策	記号と名称		目的	
	A1	「みんなキラキラ」子どもは町の主人公	保育園児が屋外での遊びや運動を中心に様々な体験を深め、自然とふれあう中で、意欲、自立心、感性など根っこの力を育む	
			小学生が「将来の夢を描く」ための基本的能力を獲得するとともに、主体性や問題解決力を身につけるようにする	
			中学生が探究的な学びを通じ、自己課題を設定し、主体的に判断・解決する力を育み、「将来の夢」が描けるようにする	
担当課	教育委員会事務局		担当係	こども未来係

1. まちづくりプラン計画期間(令和 11 年度末)

1)事務事業目的

対象(誰、何が)		意図(どのようになる)
(1)	小中学生	自分の居場所でエネルギーを蓄え、在籍校への復帰や接続に向けた適切な支援を受ける。
(2)	保護者	関係機関との連携で家庭の安心を支え、子どもの学びと自立につなげる。
(3)	地域住民	幼保からのつながりを活かし、地域全体で多様な子どもたちが過ごしやすい環境を整え、子どもたちのありのままの学びを支える。

2)令和 11 年度末目標(長期的な成果指標)

指標		現状と令和11年度末の値と設定根拠
A	長期欠席児童生徒の割合 ※病欠除く	(分子:年間 30 日以上欠席者/分母:全児童生徒数) R7 未実績:4.76%　R11 目標 4.5% スタートカリキュラムの充実等による不登校の未然防止・早期対応を推進することで、R7 未実績(4.76%)から 0.26 ポイントの減少を図り、R11 末目標を 4.5%に設定。
B	長期欠席児童生徒が「ばれっと」を含めたフリースクールや多様な学びの場所に参加している児童生徒数	R7 実績68.6%/目標 72% (R7 長期欠席者の内、「ばれっと」利用24人、校内教育支援センター7人、フリースクール4人)

2. 単年度計画(令和 8 年度)

1)単年度目標(単年度の成果指標)

指標		現状と令和 8 年度末の値と設定根拠
a	長期欠席児童生徒の割合 ※病欠除く	(分子:年間 30 日以上欠席者/分母:全児童生徒数) 今年度(R7 未実績:4.76%)より増やさず維持改善する。
b	長期欠席児童生徒が「ばれっと」を含めたフリースクールや多様な学びの場所に参加している児童生徒数	R7 実績68.6%/目標 69% (R7長期欠席者の内、「ばれっと」利用24人、校内教育支援センター7人、フリースクール4人)
c		

2)取り組みと 4 半期ごと目指す状態

取り組み(具体的手段)	
①	「ばれっと」を中心とした相談窓口の整備、受け入れ体制の充実および在籍校(担任等)との密な連携強化
②	TOCO-TON 事業と連携し、スタートカリキュラムの導入や自主的・探究的活動を推進。
③	民間団体と連携した学習支援や、ICT 活用による教育機会を確保。
④	家庭の状況に応じた支援や、こども家庭センター・学校とのスムーズな連携。 誰もが安心して生活し、学びに向かえる環境を町全体で整備。

4 半期ごと目指す状態(スケジュール)	
第1	保護者や地域住民に事業内容説明(保護者連絡アプリ Tetoru 等の活用) 地域と連携した職場体験の調整開始 スタートカリキュラムの導入
第2	夏休みの特別な学びの場の提供と、3校合同の職員研修・園訪問を実施する。
第3	小中学校との合同情報共有会・ケース検討会を開催し、現状を把握する。
第4	1月末に保護者会開催。1年間の総括で子どもの成長を確認し、次年度の組織的支援計画を策定する。

前年度の評価結果に基づき、変更(改善)されていることをご確認ください。